

令和5年度第1回東成区政会議での意見と対応一覧

	意見内容	委員名 または 部会名	会議での回答	対応方針	令和5年度実施状況	担当課
1	災害備蓄物資について、トイレや女性が必要とするものなど、地域で必要と感じる物資が入っていないため、物資を購入する前に、地域の災害救助部長などの意見を聞いてもらいたい。	にぎわい・ きずな部会	今後、東成区役所にて購入予定の備蓄物資について、地域自主防災組織等と連携をするよう検討していく。	会議での回答のとおり	●各地域で作成している「地区防災計画」を令和6年度以降に見直しを行っていただく中で、地域にとって必要と感じる物資を提示していただいたうえで、購入時期や手法について検討していく。 ●生理用品・紙おむつについては、令和5年度中に各避難所配備予定。	市民協働課
2	100年に1度の浸水想定ハザードマップを区民に周知してほしい。	にぎわい・ きずな部会	現在公表しているハザードマップは、想定し得る最大浸水想定として100年に一度の浸水想定ハザードマップであり、これとは別に河川管理者が作成している100年から200年に一度の浸水想定ハザードマップについては区民への啓発として使用しないよう危機管理室から言われている。そのため、6月号広報誌の防災特集では、建設局で公表している『平成26年度から令和4年度までの9年間で東成区内において浸水した場所』を掲載することで、浸水しやすい場所を示している。	会議での回答のとおり	建設局で公表している『平成26年度から令和4年度までの9年間で東成区内において浸水した場所』を令和5年6月号にて掲載した。	市民協働課

	意見内容	委員名 または 部会名	会議での回答	対応方針	令和5年度実施状況	担当課
3	自転車の危険運転、自転車の逆走、急な飛び出し、斜め横断、スマホながらの運転等が増加している。 自転車ヘルメットの着用が努力義務化されたが、自転車の危険運転の取締りや啓発等についても、地域とともにしっかりと取り組んでいく必要がある。	にぎわい・きずな部会	コロナ禍の3年間で自転車を利用する方も増加しているほか、電動自転車の普及によるスピードアップなども起因して、自転車に関係する事故件数の増加や被害の重症化について認識しており、自転車のマナーアップは重要な課題と考えている。国が昨年改定した自転車安全利用五原則、①車道が原則、左側を通行、歩道は例外、歩行者を優先、②交差点では信号と一時停止を守って安全確認、③夜間はライトを点灯、④飲酒運転は禁止、⑤ヘルメットを着用、を参考にこれまでの放置自転車対策などに加えて、警察や関係機関と連携して啓発等にとしっかりと取り組んでいく。	会議での回答のとおり	ふれあい喫茶や学校等、機会があるごとに自転車の危険運転の啓発を行っている。	市民協働課
4	東成区には公園が少ない。地域と区役所、公園事務所で連携して、みんなが愛せる公園を作りたい。	にぎわい・きずな部会	区内の公園を所管する真田山公園事務所と四半期に1度、行政連絡調整会議の場を設けているので、区政会議でご意見があったということをししっかりと伝えさせていただきたい。区役所も連携してまいる。	7月11日に開催された行政連絡調整会議において、真田山公園事務所長にもご意見を伝達し、地域としっかりと連携して進めることを確認した。		総務課

	意見内容	委員名 または 部会名	会議での回答	対応方針	令和5年度実施状況	担当課
5	学校と連携強化では、ヤングケアラー等の家庭環境に応じた支援等の連携も認識して評価してほしい。	子ども・ 教育部会	学校では児童の一人一人のスクリーニングによる課題に対し、区役所は福祉的な側面からも支援している。そういう部分も含めて評価していただいていると思うが、引き続き連携を強化していきたい。	会議での回答のとおり	福祉的な支援等の連携についても評価項目の一つである旨を年度末に行う学校関係者向けアンケートにおいて明記する予定。	市民協働課 保健福祉課
6	電子書籍導入の対象ではない小学校4年生以下には、紙の本を身近に感じる取組みをしてほしい。電子書籍については、学校関係者へ区役所から利用の働きかけを積極的に行い、利用率向上に努めてほしい。	子ども・ 教育部会	引き続き学校司書等とともに連携し、電子書籍の利用等、読書を身近に感じてもらうように啓発に取り組んでいきたい。	会議での回答のとおり	区長と校長との意見交換会や学校司書研修会において、定期的に利用の働きかけを行い、利用率の向上に努めた。	市民協働課
7	昨年度実施したモノづくりイベントは、感染症に配慮されて、非常に好評であった。今後とも子どもたちにSDGsの取組みをしっかり伝えていってほしい。	子ども・ 教育部会	今後も引き続き感染症対策を図りながら、小中学生がモノづくり企業と触れ合う機会を提供し、工場見学やモノづくりを体験することでモノづくりへの興味や関心を喚起し、将来の進路を考えるきっかけとしていきたい。また、24区万博を開催していく中で、SDGsをテーマとし、子供たちを対象とした大阪・関西万博を盛り上げる取組みを実施していきたい。	会議での回答のとおり	小学生とその保護者を対象とした「モノづくり体験イベント」を令和6年1月27日（土）に区民センターで実施予定。11月1日現在、区内企業10社と1団体が出展予定。イベント名は「東成こどもモノづくり体験フェスタ・ひがしなりSDGs万博」とする予定。会場では、出展企業等がそれぞれ取り組んでいるSDGsの課題について記した「企業マップ（仮称）」を作成し掲示する。	市民協働課

	意見内容	委員名 または 部会名	会議での回答	対応方針	令和5年度実施状況	担当課
8	地域子育てサークルについて、新型コロナウイルスで休止していたが、4月以降は全地域で再開している。しかしながら参加者が非常に少ないため、積極的に広報に取り組んでほしい。	子ども・ 教育部会	現在ホームページやFacebookを活用し周知を図っているが、引き続き周知に努めていく。	ホームページやFacebookでの周知に加え、twitterも活用し、開催日に合わせて周知するなど、より効果が期待できるタイミングでの周知を行っていく。また、地域の主任児童委員と協議のうえ、身近な地域内での周知についても検討していく。	ホームページやFacebookでの周知に加え、X(旧Twitter)も活用し、開催日に合わせて周知するなど、より効果が期待できるタイミングでの周知を行っている。 また、地域の商店街イベントでの周知、乳幼児健診や子育てイベント開催時での紹介やポスター掲示など様々な機会を捉え周知を図っている。	保健福祉課 (児童保健)
9	QRコードなど2次元バーコードの活用や、持ち歩きやすいサイズなどの、若い世代、子育て世代の方が手に取りやすく見やすいチラシや冊子の作成が必要である。	子ども・ 教育部会	頂いた御意見を参考に、さらに見やすく、持ち歩きやすいチラシや冊子の作成に努めていく。	「ひがしなり子育て安心ブック」のように、2次元バーコードの活用や、持ち歩きしやすいサイズでの作成など、見ていただきやすい広報物の作成に努めていく。	各種リーフレットやポスター、広報紙記事などで周知を行う場合には、可能な限り2次元バーコードを併記するよう取組んでいる。 また、子育てイベントや乳幼児健診時などにおいても子育て安心ブックの電子版や他の子育て支援の仕組みについて、気軽に知っていただけるよう、2次元バーコードを刷り込んだポスターの掲示やチラシの配架を行っている。	保健福祉課 (児童保健)

	意見内容	委員名 または 部会名	会議での回答	対応方針	令和5年度実施状況	担当課
10	高齢の方や、とりわけ高齢で一人暮らしの方、あるいは障がいのある方等の見守り活動は重要で、地域福祉活動サポーターがいろんな取組をされているとのことであり、見守り活動を支援したいが、声かけ等具体的に何をしたらいいかわからないので、端的に学習でき、参加できる仕組みづくりが必要と感じる。	保健福祉部会	地域福祉活動についてもっと周知・啓発することが重要であるとともに、独居高齢者を地域活動に参加してもらえよう工夫していく必要がある。地域の身近な相談窓口である地域福祉活動サポーターによる支援を、さらに広げていく取組、またやり方を工夫することによって、実質的に見守りの機能を果たすことのできる仕組みづくりを強化することが必要。	会議での回答のとおり	●地域活動サポーターの顔や活動について知ってもらい、高齢の方や障がいのある方等と地域との連携を深めるために令和6年2月の「ひがしなりだより」で広報予定。 ●独居高齢者が広く地域に参加してもらうために毎月、地域活動サポーター連絡会を開催し、各地域の取組み等について情報共有を行っている。	保健福祉課 (福祉)
11	公民館で映画上映を定期的で開催したところ、参加者がお互いに話をするいい機会となっている。こんなふうに何でも相談できる窓口があればいいのではと感じている。	保健福祉部会	同 上	同 上		保健福祉課 (福祉)
12	食べ物を捨てないように、エコクッキングやフードロス減らす取組の紹介など、様々な観点から食育を推進していくことが大切であり、SDGsの推進にもつながる。	保健福祉部会	—	引き続き、身近な場所での地域健康講座やイベント開催時など様々な機会を活用し、食育の推進、SDGsの推進を図っていく。	●中学校での出張型食育事業、東成区食育推進ネットワークを通じた小学校や幼稚園、保育園等への栄養や食育に関する情報提供や研修会の実施により、区内関係機関との連携による食育推進に取り組んでいる。 ●区民向けイベント「食育&健康セミナー」や地域健康講座を実施。	保健福祉課 (児童保健)

	意見内容	委員名 または 部会名	会議での回答	対応方針	令和5年度実施状況	担当課
13	百歳体操への男性の参加率が低い。地域の活動では男性にも興味が持ってもらえるよう映画会などの取組も行っている。百歳体操において、男性の参加が増えるような工夫が必要である。	保健福祉部会	まずは百歳体操が、いつ、どこで実施されているかを知っていただく取組として、「ちょっとのぞいて。いきいき百歳体操開催中」と書いたのぼりを作成し、各会場へ配付した。百歳体操を開催しているときに建物の外に掲げていただき、男性を含めた地域のいろいろな方に関心を持っていただく取組を開始したところである。引き続き、活動していただいている皆さんとも相談しながら考えていきたい。	百歳体操の各会場で、男性を含めた参加者増加のための工夫点などを聞き取り、地域の方とともに検討していく。 また百歳体操のみならず、男性が地域活動に参加しやすいよう、地域福祉活動サポーターの方々等と共に、アイデアを出し合い工夫を重ねていく。	百歳体操については、男性を含めた参加者増加のための工夫について、地域福祉活動サポーターや地域活動者と共に検討を行い、地域の実情に応じて取組を進めている （「ふれあい喫茶」参加者への勧奨や友愛訪問での勧奨など）。また、男性にも地域活動に興味を持っていただけるよう地域関係機関が実施している男性対象の「うどん教室」の紹介などに取組んでいる。区役所では、男性の料理教室も実施予定。	保健福祉課 （児童保健）
14	子育てネットワークの構築支援事業の中で、情報発信の中にFacebook82回、メールマガジン12回、Twitter18回とあるが、そういう中で悩まれているお母さんの声などが拾えているのかどうか。何か特徴的な悩みの具体的な事例等あれば。	平井委員	Facebook、メールマガジン、Twitterなど色々な形で情報発信させていただいているが、イベントや相談窓口等のご紹介も合わせて行っている。SNSのようなツールを使った情報発信だけでなく、子育て支援室についての小さいパンフレットなどを通じて御相談につながっていくと思われる。	子育てのちょっとした気がかりでも気軽に相談いただけるよう、わかりやすいパンフレットの作成に努め、SNSなど様々な手法を活用し、相談先の積極的周知に引き続き取り組んでいく。	パンフレットやSNSに加え、イベントなどの機会に子育て支援室についての周知を行っている。また、子育て支援室のリーフレットを医療機関や薬局などの関係機関にも配架し、子育て家庭の困りごとなどの相談窓口の周知を図っている。	保健福祉課 （児童保健）

	意見内容	委員名 または 部会名	会議での回答	対応方針	令和5年度実施状況	担当課
15	電子書籍を活用した子どもの読書活動推進について。小学校643人というのは、延べ人数なのか登録が643人ということなのか。東成区の小学生、二千数百人のうち、登録者数が643人というのは、多いのか、少ないのか。	澤江委員	電子書籍を実際に使われた利用人数、または登録人数となる。小学五、六年生と中学生にＩＤを配布しており、使用割合は、小学生が約54%、中学生が約28%となる。 小中学校の校長先生と情報共有しながら、学校司書の方が集まる会議などで、電子書籍も含め、子供たちの読書を勧めるよう、一生懸命連携して勧めていきたいと思う。	会議での回答のとおり	区長と校長との意見交換会や学校司書研修会において、定期的に利用の働きかけを行い、利用率の向上に努めた。	市民協働課
16	私らアナログ人間からすると、これからの子供たちにはデジタルというのがどうしても必要なので、できるだけ進めていていただきたい。	澤江委員	—	子ども達の読書習慣定着に向け、今年度も引き続き実施していく。	令和5年度において継続して実施するとともに、令和6年度についても実施予定。	市民協働課
17	スクールソーシャルワーカーの役割はかなり増えてきていると思われるが、東成区では加配されているのか。もし加配されてないのであれば、どうやって行政と学校をうまくつなげていく予定があるのか。予算をずっとつけていく予定があるのか。	三浦委員	スクールソーシャルワーカーについては教育委員会事務局の所管であるが、今年度は、東成区全体でも1名の加配の予算をいただいている。東成区だけでなく、全市的に1名ずつ加配という形になっている。 採用が難しくなってきた等の問題もあるが、区役所と学校とで課題の情報共有を行い、一人一人の支援について丁寧に対応させて頂きたい。	引き続き、学校やスクールソーシャルワーカーなど関係機関との連携のもと、課題を抱えるこどもやそのご家庭へ寄り添い、必要な支援につなげるよう取り組んでいく。	スクールソーシャルワーカーについては1名の配置であったが、令和5年11月1日より1名加配され2名の配置となっている。学校やスクールソーシャルワーカーなど関係機関との連携のもと、課題を抱えるこどもやそのご家族へ寄り添い、必要な支援につなげるよう取り組んでいる。	保健福祉課 (児童保健)

	意見内容	委員名 または 部会名	会議での回答	対応方針	令和５年度実施状況	担当課
18	学校を避難所として運営する際の運営マニュアルは、具体的に言うと、初動、開設に当たるもので、どういうときに避難所をまず１つ立ち上げるかという内容のマニュアルなのか。実際、有事の際にそのマニュアルがうまく機能するかどうかの検証までされているのか。	森田委員	こちらで挙げているマニュアルは、中学校のマニュアルであり、複数の地域の方の御協力によって、避難所を開設するということを目的に行っている。年に１回、実際訓練という形でそれぞれの担当の役員の方々等に動いていただき、実際に避難所の開設までしていただいている。	会議での回答のとおり	●相生中学校避難所運営マニュアルについて、令和５年１１月の訓練を経て令和６年３月に策定予定。 ●すでに避難所運営マニュアルを策定している３中学校についても、それぞれ年に１回の訓練を実施したうえで、必要に応じてマニュアルを改訂する。（東陽中：令和５年１１月、玉津中及び本庄中：令和６年２月）	市民協働課